

米国農務省穀物等需給報告(2013年4月10日発表のポイント)

米国農務省は、4月10日(現地時間)、2012/13年度の12回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

2012/13年度の穀物全体の生産量は消費量を下回るが、大豆の生産量は消費量を上回る見込み

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量:22億4,749万t(対前年度比 2.9%減)
- ② 消費量:22億7,776万t(対前年度比 1.4%減)
- ③ 期末在庫量: 4億3,933万t(対前年度比 6.4%減)
期末在庫率:19.3%(対前年度差 1.0ポイント減)

【主な品目別の動向】

○小麦:生産量は、史上最高となるインドを始め、米国、中国等で増産となるものの、乾燥等の影響を受けたロシア等の旧ソ連諸国、豪州、EU等で減産となり、世界全体では前年度を下回る見込み。また、消費量はインド、米国等を除き前年度より減少するものの、世界全体の生産量は消費量を下回り、期末在庫率は前年度より低下。

- ① 生産量:6億5,543万t(対前年度比 6.0%減)…インド、米国、中国等で増加、ロシア、カザフ、豪州、ウクライナ、EU、アルゼンチン等で減少
- ② 消費量:6億7,255万t(対前年度比 3.4%減)…米国、インド等で増加、EU、ロシア、ウクライナ、中国等で減少
- ③ 期末在庫量:1億8,226万t(対前年度比 8.6%減)
期末在庫率:27.1%(対前年度差 1.5ポイント減)
- ④ 前月からの主な変更点:消費量は、中国で下方修正。

○とうもろこし:生産量は、アルゼンチンで乾燥天候の影響はあるものの前年度より増産、中国で天候に恵まれ史上最高を更新も、米国、EUで高温乾燥による減産から、世界全体では前年度を下回る見込み。また、消費量は、中国、ブラジルで増加も米国で減少し、世界全体では前年度を下回る見込み。なお、米国、中国等で消費量が下方修正されたこと等から、期末在庫率は14.5%と前月予測より増加。

- ① 生産量:8億5,592万t(対前年度比 3.0%減)…中国、アルゼンチン、メキシコで増加、米国、EU等で減少
- ② 消費量:8億6,251万t(対前年度比 1.9%減)…中国、ブラジル等で増加、米国等で減少
- ③ 期末在庫量:1億2,529万t(対前年度比 5.0%減)
期末在庫率:14.5%(対前年度差 0.5ポイント減)
- ④ 前月からの主な変更点:消費量は、米国、中国で下方修正。

○米(精米):生産量は、中国等の増産から、世界全体では史上最高となるも、中国等の消費量の増加から、消費量を下回り、期末在庫率は前年度より低下。

- ① 生産量:4億6,760万t(対前年度比 0.4%増)…中国等で増加、インド等で減少
- ② 消費量:4億6,930万t(対前年度比 2.2%増)…中国等で増加
- ③ 期末在庫量:1億 379万t(対前年度比 1.6%減)
期末在庫率:22.1%(対前年度差 0.9ポイント減)
- ④ 前月からの主な変更点:大きな変更なし。

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

生産量は、米国で生育期後半の降雨により単収は改善したものの、コーンベルトの高温乾燥によりやや減産、一方、南米は、ブラジルで天候に恵まれ史上最高、アルゼンチンで乾燥天候の影響はあるも前年度より増産となること等から、世界全体では前年度を上回る見込み。なお、期末在庫量は、中国で下方修正されるも、ブラジル等の上方修正により、前月予測より増加。

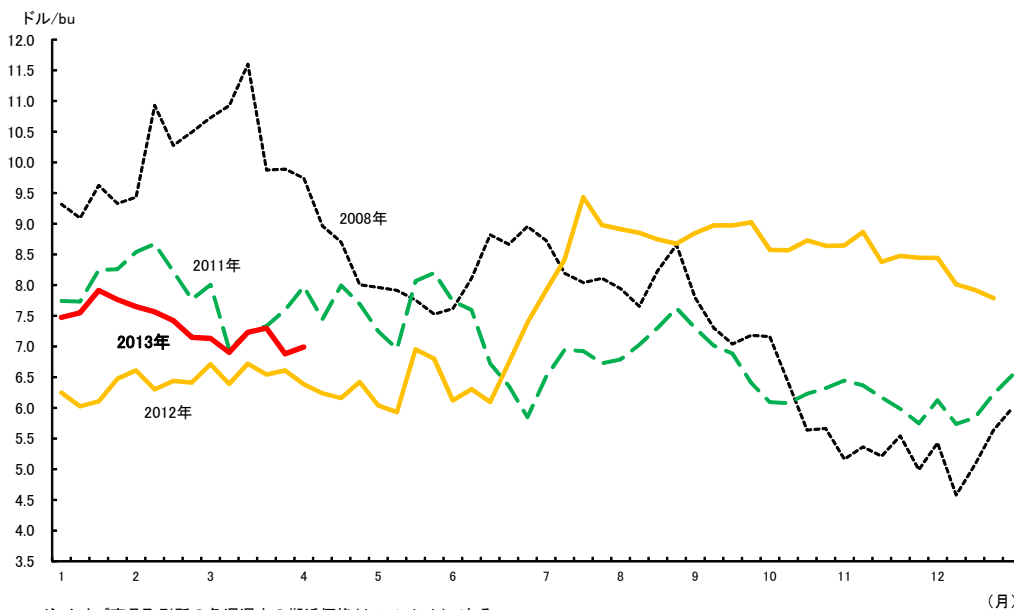
- ① 生産量:2億6,963万t(対前年度比 12.5%増)…ブラジル、アルゼンチンで増加、米国で減少
- ② 消費量:2億5,975万t(対前年度比 1.5%増)…中国等で増加
- ③ 期末在庫量: 6,263万t(対前年度比 13.6%増)
期末在庫率:24.1%(対前年度差 2.6ポイント増)
- ④ 前月からの主な変更点:期末在庫量は、ブラジルで上方修正、中国で下方修正。

世界の穀物の価格動向(2013年)

- 小麦:6.99ドル/bu(前年同時期の価格:6.39ドル/bu)
(価格は、シカゴ商品取引所における4月第1週末の期近価格。)

2012年1月以降、世界的に在庫が豊富な中、6ドル/bu台前半～半ばで推移。5月中旬に米国南部やEU東部、旧ソ連諸国、豪州等での乾燥天候による作柄懸念から一時値を上げたものの、その後の各地の降雨により値を下げた。6月半ば以降、高温乾燥で被害を受けた米国産とうもろこしの急騰に追随したことに加え、乾燥天候等による旧ソ連諸国の減産見込みから高騰したものの、7月半ば以降、米国産春小麦の収穫進展で値を下げた。9月以降、値を下げた大豆、とうもろこしに追随しながらも、米国の需要増、豪州の生産見通しの悪化懸念や10月以降の米国冬小麦地帯での乾燥による初期生育状況の悪化、ウクライナの輸出規制の動向等から、8ドル/bu台後半から半ばで推移。その後、南米産の良好な生育見通しによるとうもろこし価格の下落や、インド、カナダの輸出余力等から、12月後半から8ドル/buを割り込んだ。

2013年1月以降、米国冬小麦地帯での乾燥の継続から一旦上昇したものの、2月以降の降雨・降雪による乾燥懸念の後退から7ドル/bu前後に値を下げた。3月中旬に、とうもろこしに追随し一時上昇したものの、3月末の米国四半期在庫報告で市場予想を上回る在庫となったことから値を下げ、現在7ドル/bu前後で推移。

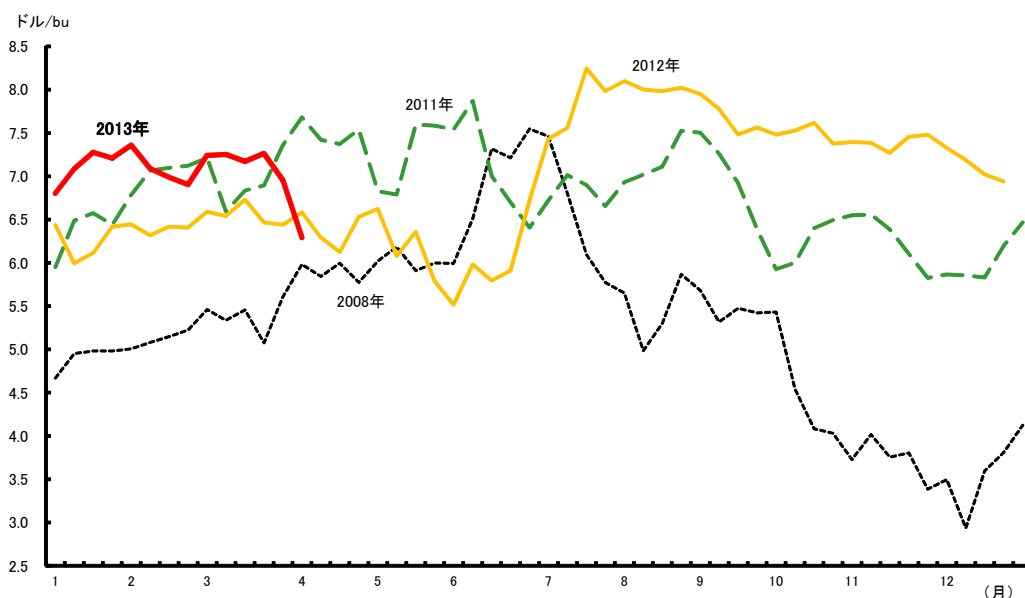


注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移。

- とうもろこし:6.29ドル/bu(前年同時期の価格:6.58ドル/bu)
(価格は、シカゴ商品取引所における4月第1週末の期近価格。)

2012年1月以降、6ドル/bu台半ばで推移したものの、3月半ば以降、米国の作付面積が1937年以降最大と見込まれたことや、例年以上の作付進捗から値を下げた。4月半ば以降、中国等の堅調な輸入需要から値を戻したものの、米国産の順調な生育やブラジルの冬とうもろこしの増産等から値を下げた。6月以降、米国コーンベルトでの受粉期を通じた高温・乾燥による作柄への影響から値を上げ、7月に8.25ドル/buと最高値を更新し、8月21日には8.31ドル/buと過去最高値を記録した。9月以降、南米の降雨過多によるとうもろこしの作付け遅れがあったものの、米国産の収穫進展や、高値による輸出需要の不振等から値を下げた。11月以降、引き続きアルゼンチンの降雨過多によるとうもろこしの作付け遅れがあったものの、米国の輸出不振から7ドル/bu前半から半ばで推移。その後、南米の天候回復や引き続き輸出不振から、12月後半以降7ドル/buを割り込んだ。

2013年1月以降、米国のエタノール生産は減少したものの、飼料用需要が増加したことやアルゼンチンの高温・乾燥天候から値を上げた。2月以降、米国の輸出需要の不振やブラジルの豊作見込みから一旦値を下げたものの、飼料用需要、エタノール生産の増加等の需要回復見込みから値を戻した。その後、3月末の米国四半期在庫報告で市場予想を上回る在庫となったことから値を下げ、現在6ドル/bu前半で推移。

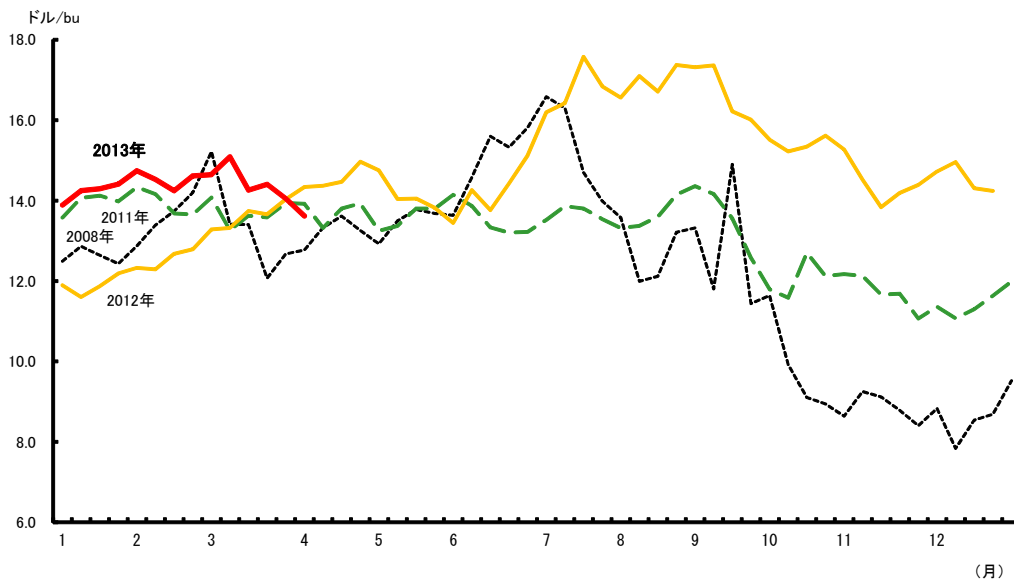


注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移

● 大豆: 13.62ドル/bu(前年同時期の価格: 14.34ドル/bu)
 (価格は、シカゴ商品取引所における4月第1週末の期近価格。)

2012年1月以降、引き続き南米産の減産見通しや米国作付意向面積の伸び悩み、中国等の輸入需要から一時15ドル/buまで値を上げたが、5月中旬以降、米国での平年を上回る作付けの進展や、初期生育期の良好な天候から値を下げた。6月以降、米国では例年より早い生育進捗となったが、コーンベルトの開花期の高温乾燥による作柄への影響懸念から、7、8月と最高値を更新し、9月4日には17.71ドル/buと過去最高値を記録した。9月半ば以降、収穫の進展から値を下げた。10月半ばには南米の降雨過多による作付け遅れ等から一時上昇したものの、その後の天候回復見込みや、11月の米国需給報告で作柄の回復が示されたこと等から下落した。11月半ば以降、米国の輸出需要の復調等から14ドル/bu台後半に上昇したものの、南米の天候回復やブラジルの一部で収穫が開始されたことから14ドル/bu前半で推移した。

2013年1月以降、好調な輸出成約やアルゼンチンの高温・乾燥天候から値を上げたものの、2月以降、アルゼンチンの天候回復やブラジルの豊作見込みから一時値を下げた。その後、米国の堅調な輸出需要から値を戻したものの、3月中旬から南米の収穫の進展や3月末の米国四半期在庫報告で市場予想を上回る在庫となったことから値を下げ、現在13ドル/bu後半で推移。



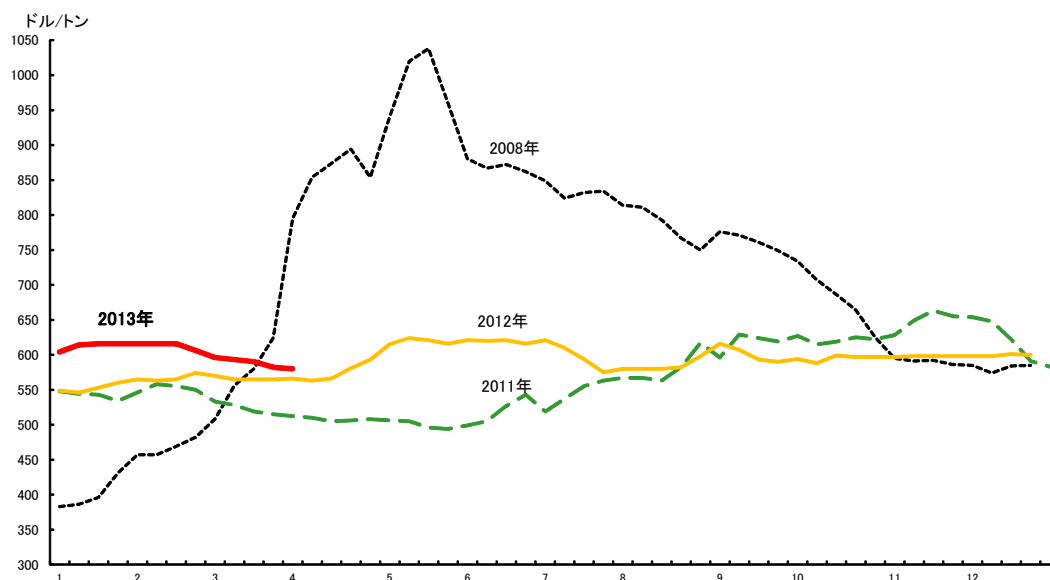
注:シカゴ商品取引所の各週末の期近価格(セツルメント)である。
 グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移。

● 米:580ドル/トン(前年同時期の価格:566ドル/トン)

(価格は、タイ国家貿易取引委員会における4月第1水曜日のFOB価格である。)

2012年4月以降、タイで担保融資制度による買上げで輸出向けの供給量が引き締まり、600ドル/トン台前半で推移。7月以降、輸出需要が落ち着いたことから、600ドル/トン前後で推移。

2013年1月以降、引き続き輸出向け供給量が引き締まったことから、価格は堅調に推移したものの、2月以降、タイにおける政府在庫の放出により、現在は500ドル/トン後半で推移。



(注)タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格(各週水曜日)
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格推移。

(月)

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

17年	18年	19年	20年	21年度	22年度	23年度	24年1月	2月	3月
113.26	116.89	114.35	100.64	92.85	85.71	79.05	76.97	78.45	82.43
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	25年1月
81.49	79.70	79.32	79.02	78.66	78.17	78.97	80.87	83.64	89.18
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
93.21	94.75								

注: 東京市場銀行間取引、直物相場終値平均(日本経済新聞)

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年1月	2月	3月
49.49	41.59	85.22	94.68	51.29	61.77	53.05	50.24	45.90	47.01
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	25年1月
51.01	48.60	44.71	45.77	44.49	42.71	46.30	45.19	44.11	44.24
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
44.50	47.52								

注: 米国ガルフー日本間(穀物、パナマックス級; World Maritime Analysis Weekly Report)

19年4月よりパナマックス級のサイズ変更(65,000DWT→72,000DWT)

25年3月の数値は、25年4月5日現在の暫定値

3 原油価格(WTI:米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年1月	2月	3月
56.56	66.21	72.34	99.65	61.80	79.53	95.12	100.32	102.26	106.20
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	25年1月
103.35	94.72	82.41	87.93	94.16	94.56	89.57	86.73	88.25	94.83
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
95.32	93.00								

注: 内閣府「海外経済データ(平成25年3月)」

25年3月の原油価格(WTI)は「U.S. Energy Information Administration」の週別価格の平均値。